

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 17 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24520869

研究課題名(和文) エジプト王朝時代の聖地の形成と展開に関する考古学的研究

研究課題名(英文) Archaeological studies on the formation and evolution of the Sacred Landscape in Ancient Egypt

研究代表者

河合 望 (Kawai, Nozomu)

早稲田大学・高等研究所・准教授

研究者番号：00460056

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、早稲田大学が調査を継続しているアブ・シール南丘陵遺跡の出土資料を検証し、古代エジプトにおける聖地の形成と展開について実証的に明らかにすることを目的とした。本研究により、当該遺跡における通時的な発展より具体的に明らかとなった。特に岩窟遺構等から出土した中王国時代におけるライオン女神の祭祀の痕跡については、出土遺物の再検討と文字史料の精査を行い、後世に記録のある古代エジプトの「酩酊の祝祭」との関係が推察された。また、岩窟遺構では神像群の疑似埋葬が行われたことを指摘した。第2中間期末における集団埋葬の性格、丘陵頂部の新王国時代の遺構の性格についてもより具体的な成果を挙げる事ができた。

研究成果の概要(英文)：This research aimed to reveal the development of the sacred landscape of Ancient Egypt through the excavated material at the site of Abusir South/Northwest Saqqara by Waseda University Egyptian Expedition. A number of new insights into the details of the activities throughout Ancient Egyptian History in this site during the research period. Notably, the nature of the cult ritual activities during the Middle Kingdom has been assumed by examining the excavated artifacts and the later textual evidence. I suggest that the Middle Kingdom cult ritual activities in this site relates to the so-called "Drunken Festival" of dangerous goddess. Also, it is assumed that the statues from the rock-cut chamber was intentionally buried after their usage as a part of the ritual. In addition, the details of the nature of the multiple burial of the late Second Intermediate Period and the New Kingdom monuments have been revealed during the research period.

研究分野：エジプト学、エジプト考古学

キーワード：古代エジプト 考古学 エジプト学 アブ・シール南丘陵遺跡 聖地 祭祀 埋葬 王朝時代

1. 研究開始当初の背景

早稲田大学古代エジプト調査隊が1991年以降、調査を実施しているアブ・シール南丘陵遺跡(図1)は、砂漠の縁辺部から約2km離れた砂漠の丘陵に位置する。有名なサッカー遺跡とアブ・シール遺跡の中間に位置し、その傑出した景観にもかかわらず、調査隊がその存在を明らかにするまで、全く未知の遺跡であった。

これまでの調査の結果、この遺跡は、初期王朝時代からプトレマイオス朝まで約3000年の間、聖地として重要な位置を占めていたことが判明した。また、日本隊による精度の高い発掘調査により、古代エジプトの聖地の形成と展開を考古学的に辿ることが可能な稀な遺跡である。

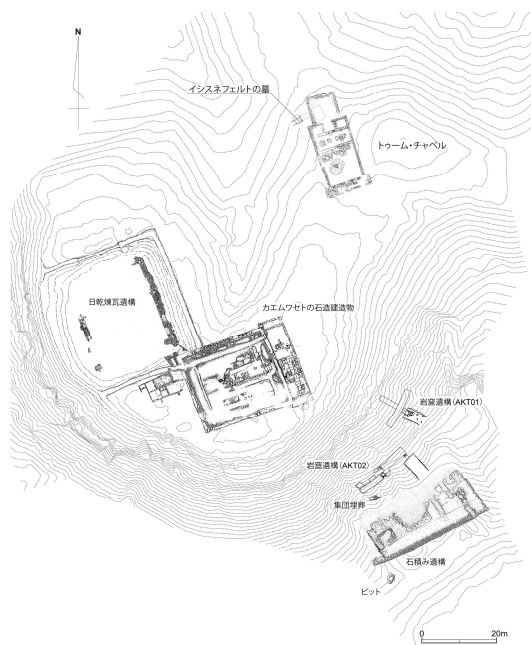


図1 アブ・シール南丘陵遺跡地図

当該遺跡から検出された遺構の中で最古のものは、丘陵南東斜面に位置する石積み遺構と付属する地下室(岩窟遺構 AKT02)である。石積み遺構は、築造技術が世界最古の大型石造建造物とされているサッカーのジェセル王の階段ピラミッドと類似しており、ほぼ同時代に建造された可能性が高い。付属する地下室からは初期王朝時代に年代づけられる多数の奉献遺物が出土しており、類例はエジプト各地の最初期の神殿出土の奉献遺物に求められる。また、初期王朝時代の奉献遺物と共伴して出土した中王国時代の奉献遺物は、当該遺跡が断続的ではあるものの長期間にわたって祭祀の場、すなわち聖地として機能していたことを示した。

同じく南東斜面から検出された岩窟遺構 AKT01 の内部からは、古王国時代第4王朝のクフ王の銘のあるライオンの女神像を含むテラコッタ製の神像数体とともに中王国時代の土器が出土した。また、石積み遺構の

南側からは祭祀の痕跡とみられる数千点の中王国時代の奉献用土器の廃棄場が検出された。これらの証拠も当該遺跡にて中王国時代に活発な祭祀活動が展開されたことを示している。このように初期王朝時代や古王国時代の祭祀施設が中王国時代に再利用される例は、他の地域の遺跡にも類例があり、当該遺跡での祭祀活動の実態をより詳細に考察する必要がある。石積み遺構の背後の斜面には、第2中間期末から新王国時代第18王朝初期に年代づけられる集団埋葬が検出され、出土遺物の検討からレヴァント由来のカナン人の家族埋葬である可能性を指摘した。

丘陵頂部においては、新王国時代の遺構が検出された。西端部には第18王朝のアメンヘテプ2世とトトメス4世に関連する日乾煉瓦遺構があるが、その具体的な機能は明らかではない。この遺構の南東部に隣接して第19王朝のラメセス2世の第4王子で「最古の考古学者」とも称されるカエムワセト王子の葬祭殿とみられる石造建造物がある。遺構は1991年に発見されたものの建造物を構成していた石材やレリーフは近年ようやく大方が判明し、復元研究は今後の課題である。

さらに、カエムワセト王子の石造建造物の北北東約40mの地点に第19王朝のトゥーム・チャペル(神殿型貴族墓)がある。地下埋葬室から出土した石棺および同時代資料の検討などから同遺構がカエムワセト王子の娘イシスネフェルトに帰属することを指摘した。このトゥーム・チャペルの発見により新王国時代メンフィス・ネクロポリスにおける墓域の分布論を塗り替えることとなった。

これまでの当該遺跡の研究は、大方毎年行われている発掘調査概報のレベルで終わっており、各遺構の性格についての考察も十分とは言えない。しかし、近年の発掘調査の進展により出土資料が増加し、ようやく各遺構の性格を明らかにするに足りうる状況になったと言える。ひいては、アブ・シール南丘陵遺跡全体の特質が明らかになり、古代エジプトにおける聖地の形成と展開という研究課題に取り組む契機であると考えた。

申請者は2001年より当該遺跡の発掘調査主任として発掘調査および研究の総括を担い、国内外に研究の成果を発信してきた。上記の予備的な研究成果を踏まえて、古代エジプトの聖地として重要な位置を占めた当該遺跡の研究をさらに深め、幅広い歴史的・考古学的文脈に位置づけることが義務であると考え、本研究課題の申請に至った。

2. 研究の目的

上記の背景およびこれまでの研究成果をもとに、研究期間内において以下のことを明らかにすることを目的とした。

(1) 初期王朝時代のアブ・シール南遺跡における祭祀活動の特徴とその形成過程の解明

(2)中王国時代のアブ・シール南丘陵での祭祀活動の解明

(3) 新王国時代のアブ・シール南丘陵遺跡の性格と各遺構の特徴の解明

これらの研究項目は、アブ・シール南丘陵遺跡を通時的かつ総合的に考察することにより、古代エジプトにおける聖地の形成と展開について実証的に明らかにすることを目的とした。

3. 研究の方法

研究の方法は、アブ・シール南丘陵遺跡の発掘調査および出土遺物の考古学的研究、関連類似遺跡の比較調査 エジプトおよび欧米の博物館、美術館、大学研究機関での資料調査、既往研究の精査および文献史料からの考察を3つの柱として研究を実施した。

4. 研究成果

(1) アブ・シール南丘陵遺跡の発掘調査

2012年8月から9月にかけてエジプト、アブ・シール南丘陵遺跡の第22次調査にて発掘調査を実施した。本調査の目的は、科研費研究課題の目的であるアブ・シール南丘陵の形成と展開について明らかにするために、以前物理探査で異常応答がみられた丘陵頂部、丘陵の南東斜面、南東地区の異常反応のみられた地域を発掘することであった。特に丘陵から約450mに位置する南東地区では、主に2箇所の発掘区にて調査が実施され、シャフト1基と3つのピットが検出された。これらの遺構の周囲には石灰岩の岩盤の掘削活動の痕跡、大量の炭化物と珪質砂岩を含む層が、珪質砂岩の大岩が確認された。これらはおそらく当該地区にて断続的に埋葬活動や石材の運搬、切り出し、粉碎などの活動の痕跡であると推測されるが、これらの活動のそれぞれの具体的な年代や目的は明らかではない(論文、)。

2013年はエジプトの政情不安により現地調査を延期し、2014年の8月から9月にかけてアブ・シール南丘陵遺跡での調査を行った。本調査の目的は、丘陵頂部の既掘エリア周辺の未掘エリアにおける補足調査を目的とした。発掘調査は、カエムワセトの石造建造物の南側の未掘エリアと イシスネフェルト墓のシャフトの周辺である。の目的はカエムワセト石造建造物に関するさらなる資料を入手することと、石造建造物建造以前および以後の活動に関する証拠を得ることであった。の目的はシャフト周囲を精査することにより、シャフトの掘削から、封鎖、盗掘の各段階を考古学的に確認することを目的とした。のエリアでは、カエムワセトの石造建造物造営以前、おそらく第18王朝時代に目的は不明であるが、ピットが掘削された痕跡が確認され、のエリアでは、トレンチ発掘により、イシスネフェルト墓のシャフ

トの掘削、封鎖、盗掘時に関連する層位が確認された。

(2) サッカラ遺物倉庫での出土遺物の研究

本研究では、アブ・シール南丘陵遺跡の形成と発展を明らかにするために、これまでの発掘調査で出土した遺物の研究を実施した。特に以下の遺物の研究に焦点を当てた。

初期王朝時代に年代付けられる奉献遺物アブ・シール南丘陵遺跡の通称岩窟遺構 AKT02 は、石積み遺構に付属する地下室とみられ、内部からは象牙製、ファイアンス製等の小型奉献遺物が出土している。これらの遺物の観察と分類を試み、他遺跡から出土している類例との比較をおこなった。

中王国時代の祭祀に関連する遺物

岩窟遺構 AKT01 および AKT02 内部から中王国時代に埋納されたと考えられる遺物が数多く出土しており、当地の祭祀活動の性格を明らかにするために極めて重要である。特に本来の製作年代が古王国時代第4王朝のクフ王の時代に年代付けられるテラコッタ製のライオン女神像、雌ライオン横臥像の詳細な観察を試み、製作から再利用、中王国時代における埋納までの神像のライフ・ヒストリーの復元を提示することができた。また、神像群は、観察から意図的に破壊を受けていることが明らかになり、疑似埋葬が行われた可能性を指摘した。

また中王国時代に製作された他のライオン女神像の観察から同遺構では、古王国時代に製作されたテラコッタ製のライオン女神像の複製が土製で製作されたことを指摘した。さらにこれまで性格が不明であった共伴した半身人物像の性格については、類似する特徴を持つ図像の検討からリビア人を表したものであることが明らかとなった。

以上の成果は、国内外の学会(学会発表、)で発表し、現在論文を執筆しているところである。

集団埋葬出土遺物

第2中間期末あるいは新王国時代第18王朝初頭に年代付けられる集団埋葬の遺物の再検討を行い、西アジアの影響が色濃い遺物が包含されていることが明らかとなり、埋葬とエスニシティの問題についての研究をおこなった。成果については、国外の学会で報告した(学会発表)。

イシスネフェルトの石棺片

イシスネフェルト墓の埋葬室で発見された石棺は、古代に破壊されたため、数百個の破片として出土した。この石棺の復原研究を進めており、破片の接合と図像および碑文の記録を継続した。

(3) 文字史料の研究

アブ・シール南丘陵遺跡における中王国時代の祭祀活動の具体的な内容を明らかにするために、考古遺物から得られた遺物の組み合わせに蓋然性の高い祭祀儀礼について古代エジプトにおける宗教テキストを精査したところ、当該遺跡の中王国時代の祭祀活動が、所謂「酩酊の祝祭」とよばれるライオン女神の人間に対する怒りを鎮める祝祭に関連するものであることが明らかになった。本研究の成果は、国内外の学会で発表し(学会発表、)、論文の投稿を予定している。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

Nozomu Kawai, The Tomb Chapel of Isisnofret at Northwest Saqqara, The Quest for the Dream of Pharaohs, Studies in honor of Sakuji Yoshimura, The Ministry of Antiquities, Arab Republic of Egypt, Cairo: Ministry of Antiquities, 2015 (印刷中) 査読有

河合 望、吉村作治、高橋寿光、古代エジプト聖なる丘の発掘調査-エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡第23時調査(2014年)平成26年度考古学が語る古代オリエント第22回西アジア発掘報告会報告集、2015、pp. 79-82

Ahmed Fahmy, Nozomu Kawai, and Sakuji Yoshimura, "Archaeobotany of Two Middle Kingdom Cult Chambers at North Saqqara, Egypt," Stevens, C.J., Nixon, S., Murray, M.A., and Fuller, D.Q. (eds.), The Archaeology of African Plant Use, Walnut Creek: Left Coast Press, 2014, pp. 141-149、査読有

吉村作治、河合 望、近藤二郎、柏木裕之、高橋寿光、山田綾乃、発掘調査概要、エジプト学研究別冊、第16号、アブ・シール南丘陵遺跡第21次・第22次調査概報、2013、pp.19-38
<http://www.egyptpro.sci.waseda.ac.jp/publication%20be.html>

河合 望、吉村作治、古代エジプトの聖なる丘とその周辺を探る-アブ・シール南丘陵遺跡第21次調査~22次調査(2011-2012)-、平成24年度考古学が語る古代オリエント第20回西アジア発掘報告会報告集、2013、pp. 80-85

Nozomu Kawai, Khaemwaset, The

Encyclopedia of Ancient History, Willey Blackwell, 2012, pp. 3739-3741、査読有
DOI:10.1002/9781444338386.wbeah15225

Nozomu Kawai, Kazumitsu Takahashi, and Ken Yazawa, "Middle Kingdom Pottery from Waseda University Excavations at Northwest Saqqara 2001-2003," In R. Schiestl and A. Seiler (eds.), *Handbook of Pottery of the Egyptian Middle Kingdom, Volume II: The Regional Volume*, Vienna: Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 2012, pp. 147-160 査読有

Yoshinari Abe, Rodan Harimoto, Tadashi Kikugawa, Ken Yazawa, Akiko Nishisaka, Nozomu Kawai, Sakuji Yoshimura, Izumi Nakai, "Transition in the use of cobalt-blue colorant in the New Kingdom of Egypt," *Journal of Archaeological Science*, vol. 39, no. 6, 2012, 1793-1808、査読有
DOI: 10.1016/j.jas/2012.01.021

Nozomu Kawai "The Tomb of Isisnofret at Northwest Saqqara," In M. Bárta, F. Coppens, and J. Krejčí (eds.), *Abusir and Saqqara in the Year 2010*, Prague: Czech Institute of Egyptology, 2012, pp. 497-511、査読有

[学会発表](計10件)

Nozomu Kawai, Middle Kingdom Cult Ritual at Northwest Saqqara, The 11th International Congress of Egyptologists, Augst 20-30, 2015, Florence, Italy

Nozomu Kawai, The Divine Lioness terracotta statue group from a Rock-Cut chamber at Northwest Saqqara, Abusir and Saqqara in the Year 2015, Czech Institute of Egyptology, Prague, June 23, 2015, Prague, Czech Republic.

河合 望、吉村作治、高橋寿光、古代エジプト聖なる丘の発掘調査-エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡第23時調査(2014年)平成26年度考古学が語る古代オリエント第22回西アジア発掘報告会、池袋、古代オリエント博物館、2015年3月22日

河合 望、エジプト、アブ・シール南丘

陵遺跡における中王国時代の祭祀の性格について、日本オリエント学会、第56会大会、上智大学、2014年10月26日

Nozomu Kawai, An Intact Multiple Burial in Northwest Saqqara and its ethnic identities, The Crossroads II, or their and back again, Czech Institute of Egyptology, Prague, September 16, 2014, Prague, Czech Republic.

河合 望、アブ・シール南丘陵遺跡の岩窟遺構から出土したライオン女神像について、日本オリエント学会、第55会大会、京都外国語大学、2013年10月27日

河合 望、吉村作治、古代エジプトの聖なる丘とその周辺を探る-アブ・シール南丘陵遺跡第21次調査~22次調査(2011~2012)、平成24年度 考古学が語る古代オリエント 第20回西アジア発掘報告会、池袋、古代オリエント博物館、2013年3月24日

河合 望 他、エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡第21次・第22次調査(2011~2012年)概報、日本オリエント学会、第54会大会、東海大学、2012年11月15日

Nozomu Kawai and Sakuji Yoshimura, Waseda Univ's 40 years Research in Egyptology and Application of High Technology, The 4th Egyptian-Japanese Joint Symposium on "Remote Sensing and Its Application; From Archaeology to Social Sciences" September 11, 2012, Cairo, Egypt

Nozomu Kawai, The Newly Discovered Tomb-chapel of Isisnofret at Northwest Saqqara, 63rd Annual Meeting of the American Research Center in Egypt April 28, 2012, Providence, USA

〔図書〕(計 件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：

出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

<http://researchmap.jp/1336tutankhamun/>

<http://waseda.academia.edu/NozomuKawai>

<http://egyptpro.sci.waseda.ac.jp>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

河合 望 (KAWAI, Nozomu)
早稲田大学・高等研究所・准教授
研究者番号：00460056

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：